特別講演１

「子どもを診る内科医に気を付けていただきたいこと」

福井県済生会病院 顧問・小児科
加藤　英治　先生

子どもに慣れていない内科医にとって小児の診察はストレスを強いられるものでる。特に、帰してはならない子どもを帰してしまわないかが一番の心配の種であろう。プライマリ・ケアを受診する子どもは急性疾患の患者がほとんどで、実際には自然治癒する疾患が多いことも確かである。

この講演では、どのような子どもを帰してはいけないか、あるいは小児科専門医に紹介すべきかについて、小児の日常診療でよくみられる発熱、腹痛、嘔吐、下痢、咳嗽、頭痛、痙攣などの症状から具体例を挙げて解説する。小児科では初期印象診断と呼ばれることが多いが、スナップ診断、パッと見で診断がつくケースもしばしばある。スナップ診断は重症児を診察する場合にも重要である。スナップ診断は、経験がなくても、診断の手掛かりを知ってさえいれば、迅速に簡単に診断できる方法なので、スナップ診断能力が高まるように、臨床写真を呈示する。また、今後の診療の参考にしていただくために、小児科以外の医師から紹介された患者でよくみられる誤診も取り上げて、小児の救急患者の外来診断について考えてみる。